

四明会たより

京都大学農学部四明會 2023年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 澤山 茂樹
(農学研究科長・農学部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして、誠に有り難うございます。四明會は令和5年度、学部306名、大学院修士課程301名、博士課程58名の新会員を迎え、会員数は26,639名となりました。

昨年度も令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、観桜会、観月会、ソフトボール大会、新年会、在学生の就職活動支援のセミナー・懇談会は中止または延期とさせていただきましたが、農学部卒業50周年記念同期生会は、オンラインで開催いたしました。会員交流の機会を十分に提供できなかったことは、斬鬼の念に堪えません。今年度も観桜会は中止とさせていただきましたが、新入学生保護者懇談会は、対面とオンラインのハイブリッド形式で行いました。5月から新型コロナウイルスが5類に変更されましたので、四明會の会員交流事業が再開できる日が、すぐそこまで近づいてきていると感じております。

農学部・農学研究科の教育に関しましては、本年も新型コロナウイルス感染症への対策を十分に進め、卒業式・修了式・入学式を対面で執り行うことができました。講義についても感染対策を十分に取りながら、対面授業を実施しております。マスクの着用が任意となり、コロナ前の授業風景に戻りつつあるように感じております。農学部・農学研究科の運営に関しましては、令和4年度から光熱費の高騰が大きな影響を及ぼしています。特に理系研究科は、どこの大学でも苦勞されているようです。教育研究への影響を少しでも抑えられるように、教職員一同で知恵を絞りたいと考えております。

さて、当学部は1923(大正12)年に設立され、いよいよ本年2023(令和5)年に創立100周年を迎えます。「農学部100周年記念式典」を、2023(令和5)年11月11日(土)に予定しています。「農学部100周年記念事業基金」を設立し、さまざまな事業の実施を計画しています。これらの事業は、農学部の卒業生や縁の深い方々とともに100年の歴史と今後の展望について語り合う機会とするとともに、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを狙いとしています。こうした事業の実施に加え、本基金は持続的未來の鍵となる農学の発展を担い、環境や食料問題に取り組む研究者を育成するために役立てられるほか、農学部における教育と研究環境等の整備にも活用する予定です。次世代の学生・若手研究者たちが、人類の持続的未來の鍵を握る農学の発展をリードする研究者として、あるいは、環境と食料供給の持続性に農学の専門的知識をもって取り組む人材として活躍できるように支援してまいります。なお、具体的な基金の用途は下表のように計画されております。

項目	内容
農学部百年史編纂	百年史の編纂にあたっての取材・制作費
百周年記念事業の実施	記念事業にかかる必要経費
国際研究集会の支援	大学院生・若手研究者を対象とした国際研究集会の開催
教育・研究設備等の充実	農学部・農学研究科における教育・研究設備等の整備
若手研究者の支援	若手研究者の海外派遣費用等の研究経費

京都大学農学部100周年記念事業 国際研究集会支援案

テーマ	開催日程等
食と生命の未来を拓く農学	2023年11月13日(月) 京都大学益川記念ホール等
コムギ研究の新展開：100年の研究史を反映した生物遺伝資源とゲノミクス、そして未来へ	2023年10月13日(金) 京都大学益川記念ホール
[Image Analysis for Agricultural Processes and Products: VIII International Workshop on Image Processing and Spectroscopy in Agriculture]	2022年12月6日(火)～7日(水) 国立京都国際会館 (開催済)

一方、長年ご支援をいただいている農学部教育研究基金に関しましては、令和4年度から農学研究科独自の若手・女性研究者育成・支援を目的として、農学部教育研究基金等を主要な財源に充て、リサーチアシスタント(RA)経費等、主に博士後期課程学生への支援事業を開始しました。本事業は、当研究科におきましても喫緊の課題となっている、博士後期課程学生の低い充足率への対応と位置付けております。従来の大学院学生を対象とした、国際研究集会発表支援事業も継続させて頂いております。さらに、農学部教育研究基金は、男女共同参画社会実現を目的に、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立させる職場環境の支援制度にも活用されております。

農学部教育研究基金につきましては、名誉教授の先生方を始め、多くの会員からご寄付を頂戴しておりますことに篤く御礼申し上げます。お願いばかりで誠に恐れ入りますが、農学部100周年記念事業基金につきましても、引き続きご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。ゆりの木会では約4年ぶりに各種行事が通常通り再開され、関係者の親睦を深めることができました。昨年度はソフトボール大会および予餞会を久しぶりに開催し、楽しい時間を過ごしました。今年度に入って恒例の新入生歓迎会を対面で行い、多くの新入生を迎えました。先日は木津農場での田植え会と早苗饗を開催しました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、多くの人事異動がありました。2023年3月には蔬菜花卉園芸学分野の土井元章教授が定年退職されました。また、2022年11月には育種学分野の角井宏行特任助教が東京大学へ、2023年3月には作物学分野の田中佑助教が岡山大学へ、同年3月には植物生産管理学分野の西村和紗助教が岡山大学へ、同年3月には植物生産管理学分野の元木航助教が岡山大学へ、同年4月には育種学分野の吉川貴徳助教が国立遺伝学研究所へそれぞれ転出されました。また、2022年12月には品質設計開発学分野の松岡祐樹特定助教が、2023年1月には品質設計開発学分野のCabanos Cerrone准教授が退職されました。また、2022年10月には果樹園芸学分野にHsiang Tzu-Fan特定助教が、2023年1月には植物生産管理学分野に牧隆宏助教が、同年4月には植物生産管理学分野に村田和樹助教が、同年4月には作物学分野に谷吉和貴助教が、同年4月には植物生産管理学分野に木下有羽助教がそれぞれ着任されました。また、2023年4月に蔬菜花卉園芸学の田中義行准教授が教授に昇任されました。さらに、昨年度は分野移転があり、栽培システム学分野が吉田キャンパスから木津農場へ、品質設計開発学分野が宇治キャンパスから吉田キャンパスへ、品質評価学分野が宇治キャンパスから吉田キャンパスへそれぞれ移転されました。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(西山 総一郎)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和元年末から長期化したコロナ禍は大学での教育研究にも大きな影響を及ぼしましたが、令和4年度には感染拡大が落ち着きをみせ、森林科学科での講義や学生実習は従来のような対面形式を中心とする形に戻りました。

令和4年11月5日に開催された京都大学森林科学公開講座も、宇治キャンパス 木質ホール(木質材料実験棟3F)での対面会場が準備され、zoomを使つてのオンライン配信も併用する形で実施されました。「木の家をまもる」をテーマに、生存圏研究所生活圏木質構造科学分野・中川貴文先生、生存圏研究所居住圏環境共生分野・大村和香子先生、山地保全学分野・小杉賢一朗先生から、高温多湿で自然災害が多い日本において木造建築がさらされる危険について、それぞれのご専門である地震・火災・腐朽・害虫・土石流といった観点から大変興味深い話題提供をいただきました。

末筆ながら、今後の皆さまの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(貫名 涼)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会は旧農林化学科・農芸化学科の流れをくむ同窓会です。現在、農学研究科応用生命科学専攻の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御科学、応用構造生物学)と生命科学研究所の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の5研究室(分子生体触媒化学、分子微生物学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学)、加えて、産学共同講座「産業微生物学」の学生と教職員で構成されています。

ここ数年、コロナ禍による様々な活動制限がありましたが、今年度から教育と研究について、通常どおりの活動が始まっています。令和5年の4月には、学部1回生48名が入学しました。この中には日本語を学びながら学士をめざす留学生プログラム Kyoto iUP に参加したインドネシアからの留学生が1名含まれています。大学院には応用生命科学専攻修士課程に53名(留学生3名)、同博士後期課程に16名(留学生4名)進学しました。生命科学研究所の2研究室には12名が修士課程に進学しました。今年は、久しぶりに対面式の新入生歓迎会を、入学式当日に農学部大会議室で開催しました。ジュースやお茶で乾杯して軽食を食べながら、新入生の上手な自己紹介を皆で聞き、とても楽しい有意義な時間を過ごしました。

教員の異動については、まず生物調節化学 宮川恒教授と、森林代謝機能化学 梅澤俊明教授が令和4年度末をもって定年退職されました。長年の本学科・専攻における教育と研究へのご貢献に深く感謝申し上げます。宮川教授は副学長ならびに国際高等教育院長として、梅澤教授は森林代謝機能化学 特定教授として引き続き本学に在籍されます。新規採用としては、植物栄養学 上妻馨梨助教(令和5年2月、東京大学/自然科学研究機構から)、生体高分子化学 古川亜矢子准教授(同4月、横浜市立大学から)が着任されました。また、森林代謝機能化学 飛松裕基准教授(同4月)が教授に昇任されました。一方で、生体高分子化学 黒田浩一准教授(京都工芸繊維大 教授)、同 青木航助教(大阪大学 教授)が令和4年度末に転出されました。新天地でのますますのご活躍をお祈り申し上げます。

主要行事としては、農学部グラウンドでの研究室対抗ソフトボール大会が、スポーツ委員会を中心に久しぶりに開催され、お昼休みに熱戦が繰り広げられています。もう一つの主要行事である予餞会も、活動制限の中、オンラインでなんとか継続してきましたが、昨年度の2月によく対面式で開催することができました。これからもコロナ禍で影響を受けた六成会のつながりと伝統を、様々な行事を通じて復活させていきたいと考えております。会員の皆様には、くれぐれもご自愛の上、今後とも六成会へのご支援をよろしく願ひ申し上げます。

(伊福 健太郎)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。新型コロナウイルスによる活動制限がおおそ撤廃されたこともあり、以前のように活気に満ちあふれた研究教育環境を取り戻しつつあります。

旧農林生物学科に関わる研究室の今年度の人事異動をご報告申し上げます。本年度から、植物病理学分野特定助教にZhang Ru先生(前京都大学大学院博士課程)、昆虫生理学分野特定助教に松田直樹先生(前学振PD/基礎生物学研究所)、微生物環境制御学分野の連携寄附講座である糸状菌・環境インターフェイス工学講座特定助教に辻健也先生(前同講座特定研究員)が新たに着任されました。

卒業生・修了生の学位取得者を紹介いたします。Zhang Ru氏(植物病理学)、大野恵梨香氏(植物病理学)、小川泰生氏(植物病理学)、杉原優氏(栽培植物起原学)、Basavaraj氏(栽培植物起原学)が昨年度中に博士号を取得されました。

残念なお知らせもございます。昨年8月に常脇恒一郎先生がご逝去されました。常脇恒一郎先生は、植物遺伝学分野の教授として、コムギを対象にした遺伝学、特に細胞遺伝学と分子遺伝学の面から研究をおこない、遺伝と進化について数々の重要な発見をされてきました。先生の優れた業績から、紫綬褒章、日本学士院賞、文化功労者を顕彰されております。また、米国科学アカデミー外国人会員として、世界の科学研究の発展にもご尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

旧農林生物学科の研究室が所属する資源生物科学科では、一昨年度よりコース制度が始まりました。旧農林生物学科と対応する生物先端科学コースは、植物遺伝学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学の8分野で構成されております。今年度は、コース移行後初めてとなる分属があり、22名の学生が生物先端科学コースを選択してくれました。分属直後に開催した親睦会は盛会に終わり、教員と学生ともに笑顔が絶えない様子が大変印象的でした。生物先端科学コースの学生とともに、旧農林生物学科の自由闊達な伝統を引き継ぎながら、京都大学農学部だからこそできる世界トップクラスの生物学基礎研究を目指してまいります。南窓会の皆様には、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

(峯 彰)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科、旧農林工学科)

洛水会の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

令和2年度以降、新型コロナウイルスの影響で洛水会総会はオンラインで行われておりましたが、今年度は対面(ハイブリッド)形式での総会・講演会を開催することができました。皆様のお元気な姿を直接拝見できたことは、何よりの喜びでした。秋のスポーツ大会、学生交歓会、卒業祝賀会といった交流の場も今年度は対面で再開する予定です。

コロナ禍の影響で延期を余儀なくされていた村上 章先生のご退職/理事・副学長ご就任/日本学士院賞ご受賞の祝賀会も昨年12月に盛大に開催することができました。多数の皆様のご出席を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年夏以降の人事異動をご報告いたします。8月には施設機能工学分野に郭佳先生が東北大学から准教授として着任されました。また、12月に農村計画学分野の助教であったMrittika Basu先生が退職しインドに帰国されました。令和5年4月には生物センシング工学分野の助教であった鈴木哲仁先生が三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻の准教授に異動・昇進され、さらに6月に同分野の白神慧一郎先生が若手重点戦略助教から助教に昇格されました。今後のさらなるご活躍を期待しております。現在、6月時点で地域環境工学科は教授7名、准教授6名、

助教7名の計20名の教員によって研究・教育が行われております。

洛水会の皆様には、研究の場や学生のリクルートなど、さまざまな場面でお世話になっており、いつも大変心強く思っております。今後とも地域環境工学分野の未来を担う人材の育成のために、ご協力・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、改めて皆様のご多幸とご健康を心よりお祈り申し上げます。

(中村公人)

◎農林経済学科(洛友会)

食料・環境経済学科の近況について

本学科・専攻における昨年度からの人事異動をご紹介いたします。加治佐敬先生が2023年4月1日付けで、地域環境経済学分野の教授に着任いたしました。同じく4月1日付けで、国際農村発展論分野の助教(若手重点戦略定員)の三浦憲先生が、同分野の准教授に昇任されました。

学部(食料環境経済学科)の新入生について、本年度は33名を迎え入れることができました。2年前に初めて、女子学生が過半数を超えましたが、昨年度は4割に落ちました。しかし本年度は再度、過半数に近付き(男子18名、女子15名)、近年のジェンダーバランス均衡化の傾向が維持されています。近年のもう1つの特徴である、食料・環境経済学科を第1志望として合格する新入生の増加(昨年度から約8割)も続いており、食・農・環境に関する社会的関心の高まりを実感できます。また、優れた人材・リーダーの発掘・育成を目的とする特色入試による新入生は3名(男子1名、女子2名)です。新入生の1名が留学生です。入学後に日本語教育を施し、専門教育段階から日本語で受講するiUP(International Undergraduate Program)の女子学生です。

大学院(生物資源経済学専攻)修士課程の新入生は12名(男性8名、女子4名)と、大幅な定員割れとなりました。特に内部進学者が7名に減少しています。当初は進学を希望していても、試しに就職活動をしたら第1志望の大手企業に内定し就職を決める。周囲の学生たちをみると、このように就職状況がよいことから、心変わりする者が多いようです。博士後期課程の新入生は8名(男性4名、女性4名、うち留学生4名)で平年並みですが、同様の理由で内部進学者は3名に過ぎません。この大学院(特に博士後期課程)進学率(定員充足率)の低下については、深刻に受け止めています。大学院入試説明会の実施はもちろん、本年度は新たに、研究の魅力を伝える動画を全教員が作成し、ホームページに掲載することになっています。

なお、昨年度10月に入学した、英語だけで修了できる農学特別コースの留学生は8名おり(コロナによる入国制限が緩和されたことで大幅に増加)、大学院生の数は減っておりません。

(専攻長 辻村英之)

洛友会の活動について

2022年11月5日(土)京都大学ホームカミングデイに合わせて総会を開催しました。この時期はまだコロナ禍による行動制限が残っていたため、前年と同様に、益川ホールにてオンライン併用で実施しました。記念講演は、弊会幹事会メンバーのご縁から株式会社トモエテクノ代表取締役である岡本利彦氏をお招きして「バイオマスボイラの普及に向けて 木質燃料固有の燃焼とそのハイテク制御」とする演題でお話いただき、出席会員一同、熱心に聞き入りました。

2023年6月2日にKKRホテル東京にて東京洛友会を開催しました。

その少し前の5月8日に政府が新型コロナウイルスの行動制限を解除したことを受け、関東在住の会員が声を掛け合って開催にこぎつけました。同日は大雨により交通が乱れ、何人かの会員が参加を見合わせる残念なところもありましたが、二十数名の幅広い年代の会員が集い、4年ぶりの同窓会の宴に笑顔が溢れました。

一昨年から取り組み始めた会費のオンライン決済やSNSによる活動の情報発信も、新任の事務局長や関係有志会員のご尽力により、定着してきました。また、2022年1月より隔月で、「洛友会 Emailだより」の発行を始め、これまでより高い頻度で洛友会の活動や学部・学科の情報を会員にご案内しています。

事務局を置く(公財)ルイ・パストゥール医学研究センターにて概ね月1回でオンライン併用で事務局会議を開催しています。最近では、若い卒業生の方々の参加を賜っております。本誌をお読みの会員様も、お時間がお許しになれば参加願えれば幸甚です。この会議の日程につきましては、SNSでお知らせしていく考えです。

来期以降は、広報活動だけでなく、卒業会員と現役会員との意見交換、交流の場を積極的に創っていきたくと考えております。

洛友会の活動を支える財務基盤は、皆様からの年会費が基本です。会員約1300人の内、今期の年会費を納入くださっている会員は約300人です。この間の調査により、Emailなどの何らかの手段で連絡ができる会員は700名以上いることが明らかになりました。今後はより精力的に洛友会活動の参加と会費納入を呼び掛けていく考えです。



洛友会 独自Webサイト(ホームページ)



オンライン会費納入ページ

(鏡島正信)

◎水産学科(緑洋会)

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。令和4年度の応用生物科学専攻の海洋系(旧水産学科)における教員の異動はございませんでした。

令和4年度の課題研究発表会は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の感染対策として前年度に引き続きオンラインでおこなわれました。修士論文発表会は、3年ぶりに対面で実施され、活発な意見交換がおこなわれました。

資源生物科学科では、令和3年度入学生より3年生への進学時に4つのコース(海洋生物科学、植物生産科学、応用動物科学、生物先端科学)のいずれかに所属することになりました。令和5年度には、コース制となって初めて3年生が海洋生物科学コースに分類しました。4月初旬、コースに分類した3年生を対象に歓迎会を開催しました。同コースの学生および教員が集い、交流の場となりました。

令和5年度は、基本的な感染対策を実施したうえで、講義や演習は対面でおこなわれています。講義室、実験室や研究室には学生の声があふれており、活気のある雰囲気が戻ってまいりました。笑顔が絶えない1年となりますように。

末尾になりましたが、緑洋会会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(三田村啓理)

◎林産工学科(ユナリグナ)

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、林産加工学(旧林産機械学)分野教授の藤井義久先生がご退職されました。そして、生物繊維学(旧林産化学)分野助教の久住亮介先生が国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所に移られました。新型コロナウイルス感染症による規制もほぼなくなり、講義も実験・実習も通常通り行われております。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行も止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。コロナ禍の影響で、開催が中止されてきた「関西ユナリグナ総会」につきましても活動再開に期待しております。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ(URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>)につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本学科・専攻の最近の動きと人事異動をご紹介します。

本年は3月24日に学科の卒業生と専攻の修了生を送り出すための中陽会の歓送会が楽友会館にて予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延状況を鑑みて、昨年に引き続き開催を自粛いたしました。卒業式と修了式は予定通りに行われ、食品生物科学科の4回生32名が卒業し、同専攻の修士課程2回生31名が修了いたしました。4月7日に予定されていた中陽会の総会および新入生歓迎会は、例年の楽友会館における開催ではなく、農学部総合館の講義室W522にて、新入生ガイダンス後に飲食を伴わない対面形式で実施いたしました。総会では会長より入学への祝意が表されるとともに、中陽会の歴史と伝統に関する説明が行われた後、食品生物科学1回生33名および同専攻修士課程9名を新たな会員として迎えました。新入生歓迎会では新入生が各自のプロフィールをもとに自己紹介を行い、教職員や他の新入生、学生との親睦を深めました。

教職員の異動については、令和4年9月30日付で生物機能変換学分野の高瀬隆一助教が退職されました。また、令和5年4月1日付で金沢大学新学術創成研究機構の小倉康平助教が生物機能変換学分野准教授に着任されました。

新年度からは講義も実習も原則として対面で行われ、5月8日から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の位置付けが5類に変更されたこともあり、コロナ禍以前の状態にほぼ戻りつつあります。恒例のソフトボール大会も再開しました。このような状況下、学生の教育と研究の機会を最優先しながら、学生が安心して勉学に取り組めるように、教職員一同日々努力をしております。

会員の皆様におかれましては、中陽会の発展のため、今後とも格別のご支援を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。末筆となりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

(村上一馬)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。令和5年3月末に生殖生物学分野・南直治郎教授が定年退職されました。また、令和5年4月に同分野に池田が教授として着任し、生体機構学分野に宇野絹子さんが助教として赴任されました。応用動物系5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)一同、元気に研究・教育に励んでいます。以下は、本年度はくび会副会長の前田幸太朗さん(動物栄養科学分野:修士2回生)からの活動報告です。

昨年度までは新型コロナの影響で、はくび会としての活動が相次いで中止となり、私個人としても行事を経験することなく、副会長に就任することとなりました。しかし、新型コロナの勢いも弱まり、京都の街にも大学にも活気が戻りつつあることから、今年度は可能な限り活動を再開したいと考えております。既に、ここ数年休耕地となっていた畑での栽培が始まり、各分野有志の参加の下、多くの夏野菜が生い育ち、実を結んでいます。なかなか勝手が分からない状況ではありますが、今後も他の活動を積極的に行いたい所存です。この先の状況がより一層良いものとなり、応用動物系全体で親睦を深め、はくび会としての関係性がより強固なものとなることを心より願っております。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの節は、ぜひお声掛けください。

(池田俊太郎)

◎熱帯農学専攻(熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このごろの京都大学はどうなっているのかな、をお伝えするのも小誌の役目かと思いますが、大学の近況をといいますと、今年も話題はコロナに持って行かれそうです。コロナ、まだ結構流行っているかと思っています。実態はわかりません。あまり検査に行かないので。授業や部活やそのほかへの影響はというと、これはほとんどありません。軽症なのです。京大生はどちらかというマスクをしているひが多いですかね。感染防止に期待しているというよりトラブル回避ではないかと思われます。さまざまな活動に対する熱量といいますか行動力は残念ながら下がったままと感じます。ただし、彼らのなかでは下がってなんかなくて、ふつうにやっているのだらうと思いますけれど。だって、コロナ前といまを比べても、前の学生がどんな風だったかなんて、そんなの知らないのです。3年間というのは、先輩達が一通り卒業してしまうほどの時間なので、これでいろいろなことが継承されなくなっています。とくに学生文化みたいなものですね。なので、いまの大学生は、行動を抑制しているつもりはおそらくない。ここがミソですが、私達はコロナ前といまを比べますが、彼らのコロナ前は受験勉強している高校生でしたから、京大の雰囲気みたいなものは先輩からはもう伝わりにくくなっているのだらうと思います。それで、私などから見ますと、わりと内向きといいますか京大生っぽくなく見えます。当分野は熱帯農業生態学といいますが、熱帯とか、いや海外はおろか国内のどこかに出かけていって行うフィールドワークというようなものに対する関心も、全体としてはあまり高くないように感じます。たとえば高校の3年間だとして、その間、ずっと家にいたような高校生活。それを経験して、なかなか調査研究とかそういう方向に気持ちは向きにくいのではないかと。かつて探検大学とかいっていました。そういう機運は今のところあまり感じないです。これ、京大にとっては、ちょっとまずい流れかもしれません。ちょっと前、ゆとり世代ということばがありましたね。彼らのせいではないですが、競争に弱くて学力が低いとか揶揄されました。こんどはコロナ世代ということばで呼ばれるのでしょうか。でも、それ作ったの、コロナというより大人世代ですよ。我々はそのことをもっと真剣に自覚しないとイケないと思っています。

会員のみなさまのますますのご健勝をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

— 四明會事務室付近の近景 —



農学部総合館



グラウンド方面



農学部四明會事務室のある旧演習林事務室



今出川通(農学部正門)方面



西方面

京都大学農学部卒業50周年記念同期生会

京都大学農学部は大正12(1923)年、勅令第489号をもって京都帝国大学に7つ目の学部として設置され、翌年4月入学生を受け入れ、昭和2(1927)年3月には第1期生61名の卒業証書授与式が執り行われました。

昭和52(1977)年5月19、20日の両日、農学部第1期生卒業50周年記念同窓会が開かれ、当時ご健在の卒業生30名中16名の方が参会、懐旧談に花が咲き夜遅くまで懇談されたと昭和52年11月発行の四明會名簿第26号に記載されています。

以来開催の時期は多少異なりますが第2期生の会、第3期生の会と続き、近年は京都大学同窓会のホームカミングデイの前日に開催されています。数年前からは大学院から入学された方にも参加を呼び掛けています。

昨年は昭和47(1972)年3月に学部を卒業された方々の卒業50周年にあたり、昭和49(1974)年修士修了の方々を対象として、11月4日(金)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響から多人数での会合は今少し控えるべきとの判断から、対面での開催はあきらめ前年度と同様にオンラインでの開催となりました。四明會ホームページに特設サイトを設け対象者限定で公開しました。内容は会長(農学研究科長)挨拶ビデオ、参加者からのメッセージと最近の農学部周辺の写真集です。メッセージの投稿は、やや少なかったが、それぞれの方々の思いがこもったメッセージでした。

今年は、ホームカミングデイの前日が祝日となり、翌週の11月10日(金)には農学部百周年記念式典が開催されますので、令和5(2023)年11月17日(金)に、昭和48年卒業、50年修了の方々の記念同期生会開催を予定しています。

例年は参加者の中から報告を執筆していただき写真とともに掲載していますが、今年も昨年引き続き事務局で執筆しました。
(四明會事務局)

京都大学農学部令和5年度入学生保護者懇談会

四明會では学部入学生の保護者の方々を対象に毎年入学式当日の午後に「京都大学農学部入学生保護者懇談会」を開催しています。しかし新型コロナウイルス感染防止のため令和2年度は中止、令和3年度はWEB上のビデオ配信による開催、令和4年度もWEB上のビデオ配信により開催しました。今年は4月7日の入学式の午後によく対面式で行うことができました。なお、WEB上でも公開し、ビデオ配信も行いました。

従来は農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に保護者の方々に集っていただき、新入生のこれからのための情報等を教員から提供し、その後本研究科の大学院生も加わって保護者の方々から出される質問に答えるという形式で進められ、会場の益川ホールが満員となる170～180名の参加があり、好評を得ていました。本年度は、農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に保護者の方々に集っていただき、新入生のこれからのための情報等を教員から提供し、保護者の方々から出される質問に答えました。会場のW106教室とW306教室には112名の参加があり、好評を得ました。同時に学外オンライン配信では14名の方が視聴され、四明會ホームページで後日公開したビデオは18名の方が閲覧されました。

今回の内容は、四明會会長(農学部長)澤山茂樹先生のご挨拶、農学研究科副研究科長木岡紀幸先生から「農学部カリキュラムの特徴」、農学研究科森林科学専攻高野俊幸先生から「卒業後の就職について」、農学研究科副研究科長北島薫先生から「教員からみた学生生活」という講演が行われました。その後、W106およびW306の会場に参加された保護者の方からの質問にお答えしました。終了後には参加者にアンケートを依頼しました。ご参加いただいた保護者の方々およびWEB上でご覧になられた保護者の方々の京都大学や農学部に対する理解が深まり、これからの大学生活に対する不安が解消できたのではないかと考えています。アンケートでは、ほとんどの方から懇談会の講演の内容に「満足している」との回答をいただいています。リアルタイムで質問ができる形式は好評価を得ておりますが、ハイブリッド型を希望する意見もありました。今回は新型コロナウイルスへの対応もあり、2部屋に別れての開催でしたが、1部屋での対面式での開催を求める意見もございました。今後、さらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしてまいります。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、各同窓会への支援、農学部・農学研究科OB・OGを招聘しての就職セミナーや業界・企業に関する研究セミナー等の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

(四明會副会長 白井 理)

ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。
URL : <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/> (「四明会」で検索)



同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を実施しています。今回は2件の報告が寄せられましたのでご紹介します。みなさまのご報告をお待ちしています。

昭和50年農林生物学科入学同窓会(農林生物学セミナー開催) 2019/3/23、2022/11/12

昭和50年農林生物学科入学者は11名と少ないのですが、全員が還暦を迎えたのを機に2~3年に1回の割合で「農林生物学セミナー」を開催しています。

これは同窓会として集まるだけでなく、様々な技術分野で活躍してきた同窓生メンバーが輪番で各々のライフワークの一端を講演会形式で語り、歩んできた道について理解を深め合うものです。これまでの開催実績は以下のとおりです。

第1回農林生物学セミナー(2019年3月23日)

会場：京都大学清風荘(京都市左京区)

セミナー講師：長崎大学熱帯医学研究所 川田均准教授

演題：『私が熱帯地域でやってきたこと』

〈蚊が媒介するマラリア・デング熱などの感染症はアフリカ等で今も大きな問題となっており、その防除のポイントは雌蚊の吸血・産卵行動の阻害にあるが、蚊の殺虫剤抵抗性の発達が進むため永遠の闘いが続いているという内容でした〉

第2回農林生物学セミナー(2022年11月12日)

会場：日本新薬(株)山科植物資料館(京都市山科区)

セミナー講師：日本大学生物資源科学部 北宜裕元教授

演題1：『農業技術と農地制度』

〈日本の歴史の中で、農業技術と農地制度は車の両輪となって農業生産の向上と人口増に寄与してきたが、将来に向けてはヒトが自然と共存していく方向に価値観を移して取り組んでいくことが重要だという内容でした〉

演題2：『福島第一原発事故に伴う農作物の放射性セシウム汚染の実態と対策』

〈福島第一原発事故によって飛散した放射性セシウムは約700km離れた神奈川県の子葉茶産地でも多く検出されたが、地域ぐるみで古葉と枝の剪定に取り組んだ結果、一年後には神奈川茶の市場出荷が可能になったという内容でした〉

参加者：秋田徹、川田均、北宜裕、鈴木亮平、高橋進、長久保有之、前川真見子、森正憲、矢野俊彦、山口陽子

当学年では、今後も継続的にこの「農林生物学セミナー」を開催していく予定です。

(生54 矢野俊彦)



第1回農林生物学セミナー(2019年、京都大学清風荘)



第1回農林生物学セミナー(2019年、京都大学清風荘)



第2回農林生物学セミナー(2022年、日本新薬山科植物資料館)

関東39四明会(旧田園都市A3昼食会) 2022/10/17、2023/5/12

東急田園都市線の沿線から広まる地域に住む昭和35年入学「教養A3組」の同期生が「田園都市A3昼食会」と称して、年2回昼食会を続けてきました。この会は2007年から始まり、最初は田園都市線「たまプラーザ駅」周辺に住む数人の集まりでしたが、出席者の範囲がだんだん広まり、毎回10名を超えるようになりました。しかしコロナ禍により2020年1月15日の昼食会を最後に中断していました。

永久幹事はずう〜と再開の機会をうかがっており、2022年10月17日、コロナがやや落ち着いてきましたので、これまでと同じたまプラーザ東急百貨店5階の中国名菜「陳麻婆豆腐」にて昼食会を再開しました。この時を機にA3組以外の同期生にも呼びかけたところ、農経9名、農工1名、計10名が集まりました。続いて2023年5月12日の昼食会には、農経10名、農化1名、農工1名、計12名が集まりました。

次回の昼食会は2023年10月20日開催に決定しました。また会の名称を今後「関東39四明会」とすることにしました。



参加者：朝見武夫、内田雅晃、小田有久、北川隆次、小林 宏、杉江勘治、関谷正人、西本昌道、広本昌也、藤田元彦、森 英男、安田 稔、山口 務、渡部明男

(経39 安田 稔)

同窓会・クラス会の報告について

平成30(2018)年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、その報告を令和元(2019)年から掲載しています。昨今はコロナウィルスの影響で同窓会・クラス会の開催が少なかったようですが、令和5(2023)年5月から新型コロナウイルスが5類に変更されましたので、多少の制限はありますが、以前のように多くの会の開催と報告を期待しています。

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること(開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する)
③学科同窓会が主催するものは対象外

【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

- 【手続き】 ①四明会事務局に上記の書類を添えて申請する。
②四明会事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

近況報告

毎年8月に「四明会たより」とともに調査はがきをお届けし、住所等に変更がある場合のみ返送していただいておりますが、年齢を重ねる住所等が変わることも少なくなり、十年以上も連絡をいただいている方がいらっしやいます。そこで、最近卒業後70年以上の方は住所等に変更がない場合でも近況をお知らせくださいとお願いしています。昨年は70年以下の方も含めたくさんの方から近況をお知らせいただきましたので、ご紹介いたします。お名前は伏せさせていただきます。

生18

昭和18年9月京都大学農学部を卒業、農林生物学科、植物病理学の逸見教授の下で、農学部副手を拝命され、麦株腐病の研究に従事する。然し、その翌年、昭和19年7月に応名となり横須賀海兵団に入隊、香取海軍航空隊配備、一兵卒として、航空機整備(主として機体の清掃に従事する)その間、2回特攻機を見送る。兵帽子を振って、無事帰還出来るよう祈った。しかし、それは不可能な事で一機も戻っては来なかった。昭和20年8月15日終戦。終戦後9月に兵役除隊となり、再び、農学部の逸見教授の下に戻り、その翌年、茨城県農事試験場勤務となり、その後は、農林省配備となり、茨城県の石岡農事改良事務所にはじまり、以後農薬検査所、北陸農試験、東北農試験と転じ、東北農試在職中、ロックヘラー財団の奨学金を得ることが出来、アメリカ合衆国ウェスコンシン大学で1年間植物病理の研究をし、特に植物病害標本の作成について学ぶことができたことは有意義でした。帰国後は再び、東北農試に戻り、農業技術研究所に転じ、その後、千葉大学園芸学部で招かれ、植物病理学講座担当となり、17年間、学生の教育研究に従事、学部長2期4年間、千葉大学図書館長1期半3年間勤め、その間、日本植物病理学会長、日本学術会議に選出され、第5回植物病理学国際会議を日本で開催するに当って努力し、成功させることが出来た。千葉大停年退官後は、すべての公職から離れ現在に至っています。

林25

人生の長い旅路を終り、庭一面雑草の住み慣れた家に独居し、毎日積尊の書物を読み、瞑想を楽しんでいます。しかし体は劣化して歩行車で250m歩くのが限度ですから買い物や掃除は子供らに頼んでいます。

経25

元気に過ごしております。自宅にて、たくさんの手助けを受けてはおりますが、今だすべて自分の歯で食事をし、風呂にも入ります。年相応(94歳)に記憶もあやしいものではありませんが、妻と二人静かに暮らしております。

林28

高齢になり、在るままに生きています。理性よりも感性の方が大切だと思ふようになってきました。

林32

達者です。

水32

ご案内ありがとうございます。
お蔭様で89才、富士山見える家で元気にしています。
年一回は京都に行きたく願っています。
がんばります。

経33

この連絡は母校を結ぶ唯一の絆であり非常に貴重です。ペンを持たなくなる日も近いことと思いますがその日までは精一杯虚勢を張って頑張ります。

農40

つくば市で晴耕雨読と囲碁、テニスの生活を楽しんでいます。

化42

昭和42年化学クラス会(東久会)の幹事をしています。クラス会が東京支部(10名余)と阪神間本部(10余名)その他地域(数名)に分かれますため、全国レベルの集会はよほどのイベントを組まないといけないと、しかも最近は卒業定員40名が欠落し始めていますので、各支部で集会をもってもらおうようにしています。四明会とはまたご連絡をとっていきたいと思っています。

水45

四明会の会報が届くと「ああ、寄付の季節」との思いが。思えば、小生在学当時はまことに低額の学費で教育を受けられました。社会生活からthree quarter程、足を洗い、収入はカツカツですが、昔四年間の教育サービスへの恩返しと思ひ、農学部と農場基金に毎年、少額の寄付をしております。今回の農場についての説明文を読んでいて、小生の知らない専門用語もチラホラあって、技術の進展に驚くばかりです。

目下、コロナ炎上で、高齢者として、外出は極力抑制しておりますが、沈静化の暁にはできることなら(元気なうちに)是非、新しい農場を拝見したく希望しております。教官、職員の方々は日常業務で手一杯と拝察し、適当な人数の希望者をプールして指定の日に参集させ、案内されるのが効率的と思慮します。多分、寄付者の中には見学希望者は少なからぬかと…

そして、もう一つ希望しますのは、会報の中で一つか二つ、小生の年代の者が知らず、最近の農学関係分野(水産も含む)で重要になってきている技術なり知見のコラム形式での解説があればと…

以上、勝手なことを申しましたが御留意下されば幸甚です。

農47

退職後、家庭菜園を10年以上やっていますが、一向に上達せず、「To know is one thing, to practice is another」を思い知らされ続けています。

経47

お世話になります。

メールでのやりとりを行っていない為、今後も郵便書簡にてお知らせ等頂きますと幸いです何卒宜しくお願い致します。

経47

4年前(2018年3月)に退官し、現在は郷里長野で自家の堀内果樹園を営んでいます。

食49

現在無職、人生楽しみ中。

食49

2022年(令和4年)3月に監査役を退任し、日世(株)の業務を卒業しました。現在は顧問として月に数回、出社し、高齢社員の話し相手をしています。73才になりましたが、何とか元気に暮らしております。

化55

過去、貴会発行の名簿が不動産投資のセールスを目的とする輩に出回り、大変な迷惑を受けた経験があります。貴会での名簿事業をそろそろ見直す時期かと考えます。

林56

本年3月末で愛媛大学農学部を定年退職し、京都の自宅に戻ってまいりました。愛媛大学には非常勤講師として、月に1度通っています。京都を基点に第2の人生を始めます。よろしくお願いたします。

水58

コロナ禍でリモートワークが加速する中で、ヒトの肌感覚、熱量がはかれるリアルでのコミュニケーションが減っています。10年後にビジネス上、教育上、どういう影響が出るのか考えてしまいます。便利、効率、バーチャルの裏にある現場、現物、現実を大切にしたいですね。62歳です。もうしばらく頑張ります。

畜59

定年退職後、畜産指導者から畜産経営者へと転換を図りました。認定農業者となり、あと30年は頑張る所存です。母校の繁栄を御祈り申し上げます。

生平4

ひとりごと。
フリーエネルギー装置を考えましたが、会社に所属していないので共同研究してもらえません。どうしたらいいのでしょうか…?

地域平9修

いつのまにか五十を過ぎ、若手どころか中堅でさえなくなっていました。学んだことを生かして、日々頑張っております。

四明會会員数一覽

2023/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所無効	海外
農学	昭和2～平成13	1,765	696	741	8	276	44
林学	昭和2～平成11	1,674	629	652	16	342	35
農芸化学	昭和2～平成13	2,966	1,012	1,379	26	477	72
農林生物学	昭和2～平成17	987	327	459	16	156	29
農業工学	昭和2～平成14	2,031	513	1,084	15	361	58
農林経済学	昭和2～平成13	2,617	1,108	836	12	619	42
水産学	昭和25～平成12	1,119	226	486	10	372	25
林産工学	昭和44～平成12	1,005	54	585	28	300	38
食品工学	昭和46～平成12	1,246	40	859	17	281	49
畜産学	昭和51～平成12	647	19	376	10	212	30
熱帯農学専攻	昭和58～平成10	90	4	28	5	16	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	215	11	246	11
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	62	2	45	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	291	13	229	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	67	5	73	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146		59	4	80	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184		92	5	84	3
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	1	60	2	105	
資源生物科学科	平成17～	1,785	2	785	207	788	3
応用生命科学科	平成17～	953	2	476	114	343	18
地域環境工学科	平成17～	690	5	423	68	192	2
食料・環境経済学科	平成17～	599		309	25	262	3
森林科学科	平成17～	1,070	1	366	134	565	4
食品生物科学科	平成17～	668	1	332	67	263	5
農学専攻	平成11～	242		96	11	117	18
森林科学専攻	平成10～	497	1	167	22	242	65
応用生命科学専攻	平成11～	752	3	426	36	233	54
応用生物科学専攻	平成10～	452		168	27	229	28
地域環境科学専攻	平成9～	469		161	22	212	74
生物資源経済学専攻	平成9～	271		93	24	128	26
食品生物科学専攻	平成15～	257	3	106	13	104	31
合計		26,639	4,654	12,239	975	7,952	819

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員
 熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員
 生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物科学科：学部卒業

四明會令和4年度決算及び令和5年度予算

収 入 の 部

(円)

科 目	令和4年度決算		令和5年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	6,300,000	5,603,500	6,300,000
名簿売払代	60,000	54,000	1,200,000
広告料	0	0	800,000
VISA募集手数料	4,000	3,300	4,000
VISA提携手数料	195,000	214,653	220,000
預金利息	0	51	0
寄付金及び雑収入	5,000	8,500	5,000
小 計	6,564,000	5,884,004	8,529,000
前年度繰越金	8,367,212	8,367,212	8,245,239
合 計	14,931,212	14,251,216	16,774,239

支 出 の 部

(円)

科 目	令和4年度決算		令和5年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷製本費	0	0	2,600,000
名簿発送費	55,500	44,400	222,000
会報等印刷・発送費	2,100,000	2,185,586	2,200,000
球技大会費	100,000	0	100,000
会議費	100,000	20,000	100,000
謝金	80,000	67,857	80,000
通信費	50,000	45,385	50,000
消耗品費	60,000	32,646	50,000
光熱水料・借料	210,000	218,212	220,000
振込等手数料	553,500	510,583	550,000
備品費	0	0	0
人件費	3,250,000	2,881,308	3,200,000
雑費	5,000	0	5,000
小 計	6,564,000	6,005,977	9,377,000
次年度繰越	8,367,212	8,245,239	7,397,239
合 計	14,931,212	14,251,216	16,774,239

四明會令和5年度役員名簿

会 長 澤山 茂樹
副会長 白井 理
監 事 伊福健太郎
〃 築瀬 佳之

常任委員

農 学 専 攻 及川 彰
森 林 学 専 攻 杉山 淳司
応用生命科学専攻 白井 理
応用生物学専攻 吉田健太郎
地域環境科学専攻 野口 良造
生物資源経済学専攻 辻村 英之
食品生物学専攻 谷 史人

委 員

農 学 科 西山総一郎
林 学 科 貫名 涼
農 芸 化 学 科 伊福健太郎
農 林 生 物 学 科 峯 彰
農 業 工 学 科 中村 公人
農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
水 産 学 科 三田村啓理
林 産 工 学 科 築瀬 佳之
食 品 工 学 科 村上 一馬
畜 産 学 科 池田俊太郎
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 濱中 裕之
〃 上根 勝

事 務 局 眞繼 芳春
〃 児玉富美子

四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教員、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
第7条 会長は農学部長をもってあてる。
2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
2 役員会の事務は事務局長が処理する。
第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
第19条 (1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費 (入会金及び在学中の会費)
学部生10,000円 大学院生5,000円
第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。
附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

会費納入のお願い

2023年度(2023年4月～2024年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票(A4サイズ、宛名票と同じシート)で、コンビニまたは郵便局から振り込みくださるようお願いいたします。

60歳以上(本年4月1日現在)の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「2023年度四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

「四明會VISAカード」はご存じでしょうか。三井住友カード(株)と提携して発行しているクレジットカードで、デザインに農学部正門を取り入れた親しみやすく、ステータスと独自性にあふれたものです。このカードはVISAカードとして、広く国内、国外の加盟店でご利用いただけ、ご利用の都度提携手数料が四明會に入ります。昨年も20万円を超える手数料が入り、本会の活動に使用させていただきました。四明會の会費、名簿代もこのカードで支払いできます。一昨年からのカードの加入がインターネットからできるようになりました。未加入の方はぜひご加入ください。

右のQRコードから入会ページにアクセスできます。
四明會のホームページにもリンクを設けています。



農学研究科教員人事

令和4年7月1日					
HATTORI, Ricardo Shohei	採用	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定准教授
荻野 哲也	採用	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定助教
令和4年8月1日					
中谷 加奈	昇任	森林科学専攻	森林保全管理学講座	山地保全学分野	准教授
令和4年9月30日					
高瀬 隆一	辞職	食品生物科学専攻	食品生産工学講座		助教
久住 亮介	辞職	森林科学専攻	生物材料工学講座		助教
令和4年10月1日					
HSIANG, Tzu-Fan	採用	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	特定助教
寺内 裕貴	採用	糸状菌・環境インターフェイス工学講座 (寄附)			特定助教
郭 佳	採用	地域環境科学専攻	地域環開発工学講座	施設機能工学分野	准教授
ZHANG, Ru	採用	応用生物科学専攻	植物保護科学講座	植物病理学分野	特定助教
令和4年12月1日					
小林 加代子	配置換	森林科学専攻	生物材料科学講座	生物繊維学分野	助教
松田 直樹	採用	応用生物科学専攻	植物保護科学講座	昆虫生理学分野	特定助教
令和4年12月31日					
松岡 祐樹	辞職	農学専攻	品質科学講座		特定助教
HATTORI, Ricardo Shohei	任期満了	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定准教授
荻野 哲也	任期満了	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定助教
令和5年1月1日					
牧 隆宏	採用	附属農場			助教
安齋 賢	採用	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定准教授
村上 悠	採用	ゲノム編集育種講座 (産学共同)			特定助教
令和5年1月31日					
CABANOS, Cerrone Salamat	辞職	農学専攻	品質科学講座		准教授
令和5年2月1日					
上妻 馨梨	採用	応用生命科学専攻	分子細胞科学講座	植物栄養学分野	助教
令和5年2月28日					
寺内 裕貴	辞職	糸状菌・環境インターフェイス工学講座 (寄附)			特定助教
令和5年3月31日					
元木 航	辞職	附属農場			助教
西村 和紗	辞職	附属農場			助教
田中 佑	辞職	農学専攻	作物科学講座		助教
青木 航	辞職	応用生命科学専攻	応用生化学講座		助教
北山 兼弘	退職	森林科学専攻	森林環境科学講座		教授
鈴木 哲仁	辞職	地域環境科学専攻	生物生産工学講座		助教
黒田 浩一	辞職	応用生命科学専攻	応用生化学講座		准教授
南 直治郎	定年退職	応用生物科学専攻	動物遺伝増殖学講座		教授
土井 元章	定年退職	農学専攻	園芸科学講座		教授
藤井 義久	定年退職	森林科学専攻	生物材料工学講座		教授
宮川 恒	定年退職	応用生命科学専攻	応用生化学講座		教授
令和5年4月1日					
小野田 雄介	昇任	森林科学専攻	森林環境科学講座	森林生態学分野	教授
池田 俊太郎	昇任	応用生物科学専攻	物遺伝増殖学講座	生殖生物学分野	教授
田中 義行	昇任	農学専攻	園芸科学講座	蔬菜花卉園芸学分野	教授
三浦 憲	昇任	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	国際農村発展論分野	准教授

渡邊 哲弘	配置換	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	微生物環境制御学分野	准教授
吉見 啓	配置換	地球環境学堂	資源循環学廊		准教授
加治佐 敬	採用	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	地域経済環境学分野	教授
EPRON, Daniel Claude Andre	採用	森林科学専攻	森林保全管理学講座	森林水文学分野	教授
小倉 康平	採用	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野	准教授
古川 重矢子	採用	応用生命科学専攻	応用生化学講座	生体高分子化学分野	准教授
坂部 綾香	採用	森林科学専攻	森林保全管理学講座	森林水文学分野	助教
宇野 絹子	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	生態機構学分野	助教
時任 美乃理	採用	森林科学専攻	森林環境科学講座	森林利用学分野	助教
谷吉 和貴	採用	農学専攻	作物科学講座	作物学分野	助教
木下 有羽	採用	附属農場			助教
村田 和樹	採用	附属農場			助教
辻 健也	採用	糸状菌・環境インターフェイス工学(寄附講座)			特定助教
中谷 加奈	昇任	防災研究所	附属流域災害研究センター		教授
廣岡 博之	併任	附属牧場長			

個人情報保護について

四明會では、これまで毎年実施いたしております四明會会員状況調査により皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたしております。今後も引き続き厳重な管理のもと、いただいた情報に基づき、会報の送付等の事業を行ってまいります。

「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実をさらに図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。
(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください) E-mail:shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

名簿第64号の発行について

四明會名簿は隔年発行となっており、2021(令和3)年に名簿第63号を発行しました。

本来ならば、本年は第64号の発行となるところですが、経費的課題のみならず、個人情報保護の厳格化、さらには昨今の名簿等を利用した事件などを鑑み、関係委員会で今後の発行について検討した結果、さらに継続的に検討を行い、結論を得るまでは発行を停止することといたしました。

会員の皆様には、諸般の事情をお含みおきいただき、何卒、ご理解・ご協力願いたく、よろしく願いたします。

なお、名簿第63号の有償による配付につきましても、停止させていただきます。

不要となった名簿の処分について

以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。

(申し訳ございませんが送料はご負担願います。)

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (令和5年5月1日現在)

(1) 学部

学 部 学 生				合 計
1年次	2年次	3年次	4年次	
306	311	309	359	1,285

(2) 大学院

修 士 課 程			博 士 後 期 課 程				合 計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
314	354	668	69	84	96	249	917

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
7	5	2	8	22	13	2

2. 入学状況 (令和5年度)

(1) 学 部

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	501	259	760	186	104	290
特色入試	—	40	33	73	7	5	12
計	300	541	292	833	193	109	302

(2) 大学院

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	235	131	366	191	110	301
博士後期課程	90	33	23	56	35	23	58

3. 入学試験合格者最高点・最低点 (総点) (令和5年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	848.45	679.78	726.26

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	令和4年度	累計
旧制(昭和23～昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	317	21,811
合計	—	25,203

(2) 大学院修了者数

修 士 課 程	
令和4年度	累計
308	11,878

(3) 博士学位授与者数

区分		令和4年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	54	2,567
	論文提出者	12	2,912
合計		66	6,120

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部（令和5年3月卒業者）・大学院（令和4年度修了者・研究指導認定退学者）

産 業	区 分	学 部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業	2			1	1	
	鉱業・建設業	1	1	4			
	食料品・飲料・たばこ		2	21	19	3	
	繊維工業			2	1		
	印刷等			2			
	化学工業・石油	1		14	13	3	1
	鉄鋼業・金属			1			
	機械・電気	5	1	9	10	1	
サービス業	その他				3		
	電力・ガス			4	2		
	情報通信業・運輸業	6	4	25	9	1	
	卸売・小売業	1	2	14	6		1
	金融・保険業	5	3	8	2		
	学術研究・専門・技術	7	6	17	20	4	1
	宿泊・飲食業			2			
	その他	7	1	4	1	1	1
教育	学校教育			2		8	5
	学習支援業			1			
公務	国家公務		3	5	3		
	地方公務	2	2	7	1		
	上記以外	1		5		4	2
	男子計	38		147	91	26	11
	女子計		25				
総合計		63		238		37	

6. 国別外国人留学生数

令和5年5月1日現在

国 名	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アゼルバイジャン			1		1
イタリア				1	1
インド			1		1
インドネシア	4	14	6	5	29
ウガンダ		1			1
オーストラリア		1			1
オーストリア				1	1
オランダ				1	1
カナダ				1	1
カメルーン			1		1
カンボジア		2	1	2	5
ケニア		1	3		4
シンガポール		1			1
スペイン			1		1
スリランカ				2	2
タイ	1	4	4		9
チリ				1	1
ドイツ				1	1
ナイジェリア		1			1
バングラデシュ			2		2
フィリピン		1	2		3
ブラジル		1	1		2
フランス				5	5
ベトナム			2		2
ペルー		1			1
ベルギー				2	2
マダガスカル				1	1
マレーシア			2		2
ミャンマー		2	5		7
モロッコ			1		1
韓国	1	5	4		10
台湾	2	7	4	1	14
中国	1	37	63	12	113
米国		1		2	3
香港	2				2
総 計	11	80	104	38	233

京都大学農学部教育研究基金
京都大学農学研究科附属農場基金
京都大学農学部100周年記念事業基金
醸金・事業状況の報告

会員の皆様には昨年度も各基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。

農学部教育研究基金は、昨年度73件の寄附を頂いています。収支は下記のとおりです。これまでもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援することにしています。昨年度は、11名の学生に国際研究集会等参加助成金、2名の学生に留学支援助成金を支給いたしました。さらに、女性・若手研究者支援事業も実施しております。また、「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄附頂いた山林の維持のために使用しています。本研究科国際交流室が実施する留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用していた「国際交流室行事用経費」は、会議費等の支出のみとなりました。

附属農場基金につきましても39件と特定基金分（京都大学本部を通して募集している基金）5件の寄附を頂きました。心から御礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様のご支援をお願い致します。

農学部100周年記念事業基金は、令和5（2023）年11月28日に記念すべき100周年を迎えるにあたり、農学部の卒業生や縁の深い方々と共に100年の歴史と今後の展望について語り合う機会として、また、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを願い、様々な記念事業を実施することを目的として令和2年3月16日に設立されました。昨年度は135件の寄附を頂きました。また農学部100周年記念事業として国際研究集会への助成及び100周年記念誌編纂に関する用務で農学研究科に来ていただいた方々への旅費を支出しています。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しく御願い申し上げます。

令和5年8月
 京都大学農学研究科長・農学部長 澤山 茂樹

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和4年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等 金額（円）	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）			
平成17	370	10,339,000	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	25,641,616	76,509,821	
令和2	87	2,170,700	1,528,890	77,151,631	
令和3	107	4,310,040	146,236	81,315,435	
令和4	73	1,416,370	1,185,210	81,546,595	
（累計）	2,108	130,590,711	49,044,116	81,546,595	

令和4年度執行内訳

		金額（円）	備 考	
支出	国際研究集会等参加助成金	716,060	詳細は次ページ参照	
	留学支援助成金支給	360,000	詳細は次ページ参照	
	芦生研究林（向山）維持管理費	99,031		
	国際交流室行事用経費	10,119	会議費	7,644
			消耗品費	2,475
その他	0			
計		1,185,210		

国際研究集会等参加助成金内訳

学 年	研究集会名	金額(円)	派遣先
博士1回生	AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting 2022	100,000	アメリカ
博士2回生	XV World Congress of Rural Sociology	50,000	オーストラリア
博士2回生	European Association for Southeast Asian Studies Paris 2022	100,000	フランス
博士3回生	31st International Horticultural Congress	100,000	フランス
博士2回生	The 11th Congress of the Asian Association of Environmental and Resource Economics	16,060	ベトナム
博士1回生	XV World Congress of Rural Sociology	50,000	オーストラリア
修士1回生	XVI International Congress of Acarology 2022	50,000	ニュージーランド
博士1回生	Computer Vision and Pattern Recognition Conference 2022	100,000	アメリカ
修士2回生	8th International Weed Science Congress	50,000	タイ
修士1回生	8th International Weed Science Congress	50,000	タイ
博士3回生	XV World Forestry Congress	50,000	韓国
計		716,060	

留学助成支援金内訳

学 年	研究集会名	金額(円)	派遣先
修士2回生	ワーヘニゲン大学農学専攻への派遣留学	180,000	オランダ
博士2回生	大学間学生交流協定に基づく派遣留学プログラム チューリッヒ大学への派遣留学	180,000	スイス
計		360,000	

令和4年度入金者一覧

(五十音順)

青山 威康	岡松 直勝	杉浦 明	永野 由祐	村井 宣彦
赤松 美紀	河瀬 晃四郎	高木 圭子	中濱 一雄	村上 修一
浅沼 善次郎	北島 薫	高橋 強	鳴澤 成泰	森 茂太郎
荒井 修亮	久馬 一剛	竹田 周	新居 直祐	森本 茂俊
粟野 菊雄	河野 慎吉	竹森 尚樹	西澤 健治	柳井 稔
池内 長三	小谷 明司	田中 憲次	西田 律夫	矢野 俊彦
池田 昇司	小森 信比古	塚本 正	西村 一三	山口 佳那子
池田 茉史	齋藤 健	坪井 助仁	野口 修	山口 務
板村 裕之	酒井 映浩	特定非営利活動法人 ゆうらいふ 理事長 山田 亘宏	橋本 渉	吉村 実
伊藤 七郎	坂口 守彦	徳弘 尚子	東野 敦	和田 卓也
井上 樹芳	阪本 哲也	中川 聰七郎	古田 保	和田 文男
井村 周一	佐々木 義之	中川 雅永	堀江 大輔	渡辺 達夫
位田 晴久	佐藤 淳	(株)めぐみソフト 代表取締役 中庄谷 栄太郎	松村 一郎	渡辺 弘之
上野 広顕	重田 一人	中野 達司	宮川 恒	
梅原 久弘	昭和36年農芸化学科卒業 輝友会	長野 宏	村井 耕二	

以上73名

農学研究科附属農場基金

収支 (平成25~令和4年度)

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等 金額 (円)	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額 (円)			
平成25	97	3,773,000	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000	2,420	7,224,885	
令和2	47	1,029,000	0	8,253,885	
令和3	56	833,980	0	9,087,865	
令和4	39	810,460	0	9,898,325	
(累計)	511	13,852,300	3,953,975	9,898,325	

令和4年度執行内訳

事 項	金額 (円)	備 考
支出	0	
計	0	

(特定基金分) 収支 (令和2~令和4年度)

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等 金額 (円)	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額 (円)			
令和2	1	9,500	0	9,500	
令和3	9	380,950	0	390,450	
令和4	5	53,200	0	443,650	
(累計)	15	443,650	0	443,650	

令和4年度執行内訳

事 項	金額 (円)	備 考
支出	0	
計	0	

令和4年度入金者一覧

(五十音順)

赤松 美紀 飯田 格 池内 長三 池田 茉史 池橋 宏 板村 裕之 伊藤 七郎 位田 晴久	上野 広 木村 清二 久馬 一剛 小谷 明司 佐藤 淳 杉浦 明子 高木 圭子 高田 勤	竹田 周 竹森 尚樹 中川 雅永 永野 由祐 長村 智司 鳴澤 成泰 新居 直祐 西村 一三	野口 修 橋本 涉 東野 敦 平林 征男 伏見 清昭 堀江 大輔 松村 康生 松本 和男	宮川 恒 村井 宣彦 邑本 太一 森塚 直樹 森本 茂俊 矢野 俊彦 和田 卓也
--------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------

以上 39 名

(特定基金分)

(五十音順)

高嵩 めぐみ	竹本 順一	楯谷 昭夫	鳳凰 敦	鳳凰 敦
--------	-------	-------	------	------

以上 5 名

農学部100周年記念事業基金

収支 (令和元～4年度)

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等 金額 (円)	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額 (円)			
令和元	0	0	0	0	令和2年3月16日付設置
令和2	225	6,661,400	0	6,661,400	
令和3	146	11,205,250	62,380	17,804,270	
令和4	135	7,254,773	364,290	24,694,753	
(累計)	506	25,121,423	426,670	24,694,753	

令和4年度執行内訳

事 項	金額 (円)	備 考
支出		
国際研究集会助成事業	357,230	第20回国際農業工学会世界大会2022 オーガナイズドセッション「農作業および農産物の画像解析：第8回農業における 画像処理・分光に関する国際ワークショップ」
旅費	7,060	
計	364,290	

令和4年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲 青江 正 青木 和仁 秋津 元輝 足立 芳宏 天野 貴之 天野エンザイム株式会社 荒 武 石田 恭平 泉 信爾 井手 郁子 井上 浩 今井 正彦 今津 研一 井村 周一 入江 一浩 岩井 俊郎 岩崎 衛 岩田 俊幸 院多本 華夫 上田 恭史 上野 広 浦崎 宏幸 浦田 久志 大串 博行 大澤 純二 岡澤 敦	岡本 六郎 奥村 正悟 小栗 靖生 小田 一彦 越智 寛 落合 久美子 尾中 清香 加賀美 昇 片山 高嶺 加藤 俊夫 金川 貴博 茅原 正毅 河瀬 晃四郎 神崎 護 木岡 紀幸 菊間 恵梨子 黄桜株式会社 木曾 邦明 北島 薫 木村 昭夫 熊谷 英彦 栗山 浩一 黒川 俊二 河野 慎吉 小林 優 小松 祐一 坂口 守彦	坂口 守彦 佐々木 努 佐々木 松彦 佐藤 文彦 佐藤 宗治 澤山 茂樹 三榮エフ・エフ・アイ株式会社 島村 雅広 清水 久美子 白岩 立彦 菅原 善子 宋和 慶盛 多賀 玲子 高木 迪夫 高橋 強 竹田 周 楯谷 昭夫 田中 朋之 千々和 昂亮 塚野 千尋 辻村 英 津田 隆 坪井 助仁 出垣 奈生子 寺田 喜孝 富永 達 鳥井 和之	中井 章能 中川 雅永 中川 好秋 中野 文彦 仲村 達司 中森 匡司 新居 茂 新居 直祐 西田 主計 西名 裕太 西村 一三 西山 総一郎 橋本 啓史 橋本 涉 橋本 涉 濱中 裕之 林田 直樹 東原 貴志 福田 和久 藤井 義久 藤原 正幸 伏見 清昭 藤原 良一 舟川 晋也 鳳凰 敦 本田 与一 牧 輝弥 松浦 健二	松岡 有紗 真鍋 三雄 光岡 史郎 宮川 恒 宮崎 研弥 村元 俊亮 村山 浩一 森 浩禎 森下 泰 森本 茂俊 八木 健吉 八木 隆 保川 清 八十島 千鶴 柳井 稔 山岡 万寿夫 山口 庄太郎 山口 美智子 山田 直之 山田 紘士 山田 紘士 横井 伯英 横川 幸知 吉永 新 吉村 実 LE HOANG SON 和田 栄彦
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上 135 名

第18回 京都大学ホームカミングデイ2023

リアルとオンラインのハイブリッド開催

【開催日程】

リアル開催：2023年11月4日（土）10時30分～15時00分

オンライン公開期間：2023年11月4日（土）10時00分配信開始～2023年11月30日（木）17時00分配信終了

【リアル開催のイベント】

◆ 午前：講演会

会場：京都大学百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール

・開会挨拶 湊 長博 京都大学総長（京都大学同窓会会長）

・講師：万城目 学（法学部・2000年卒）小説家

※著作本の即売会・サイン会もあります。

◆ 午後：音楽会

京都大学応援団、京都大学グリークラブ、京大合唱団同窓会

※午後の来場者には記念品をもれなく進呈します。

◆ 午後：相続セミナー

◆ 午後：施設見学（清風荘公開、総合博物館、附属図書館、尊攘堂）

◆ スタンプラリー（景品あり）

※ リアル開催のイベントはWebによる事前予約が必要なイベントもございますので、申し込み方法等の詳細は京都大学HP、京都大学同窓会HP・Facebookに掲載いたします。

【オンラインイベント】

◆ 湊長博 京都大学総長挨拶（リアル収録後オンデマンド配信）

◆ 午後のイベント（リアル収録後オンデマンド配信）

◆ 京都大学白浜水族館探訪

◆ 懐かしい京大生協食堂の今昔

◆ キャンパス内に設置するQRコードで撮影した2023年11月4日のフォトアルバム

◆ 2020～2022年度コンテンツのアーカイブ

※上記のイベント内容は現時点の予定であり、予告なく変更になる場合がございます。

【お問い合わせ】

京都大学同窓会事務局 電話075-753-2029, 5563

E-mail : alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp



◎事務局より

令和5年4月から、事務局長として勤務させていただいております眞継芳春（まつぎ よしはる）と申します。

農学部事務部では、約30年前に4年間勤務させていただきました。農学部も多様に変化していることがうかがえますが、建物等からは当時の空気を感じることができ、安堵の気持ちで澤山会長のご指示のもと、同窓会事務をさせていただいております。

令和5年5月からは、新型コロナウイルスが5類へ移行し、これまで中止または延期となっておりました本会の様々な取り組みも再開できる様子です。

会報の発行、ソフトボール大会、卒業50周年記念同期生会、キャリア・就職懇談会等の行事へ事務局として積極的に携わり、会員の皆様へより良い支援ができるよう、一生懸命勤務させていただきます。

何卒、よろしく願いいたします。

（眞継）

四明会たより（2023年8月発行）

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <https://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>